

芦屋市地域包括支援センター 活動状況報告書【令和6年度実績】

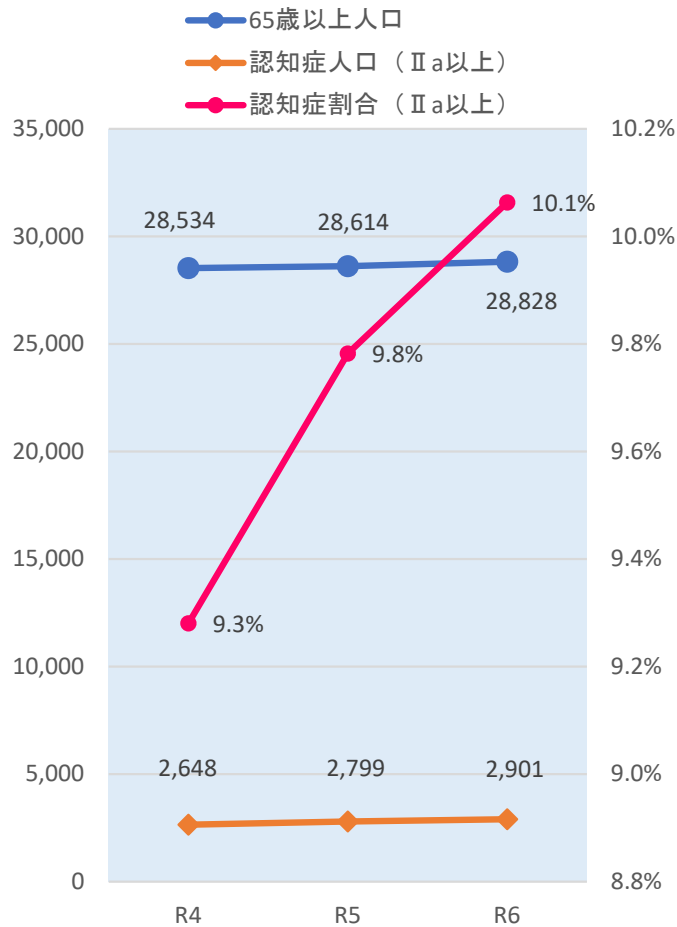
令和7年8月21日 芦屋市高齢介護課



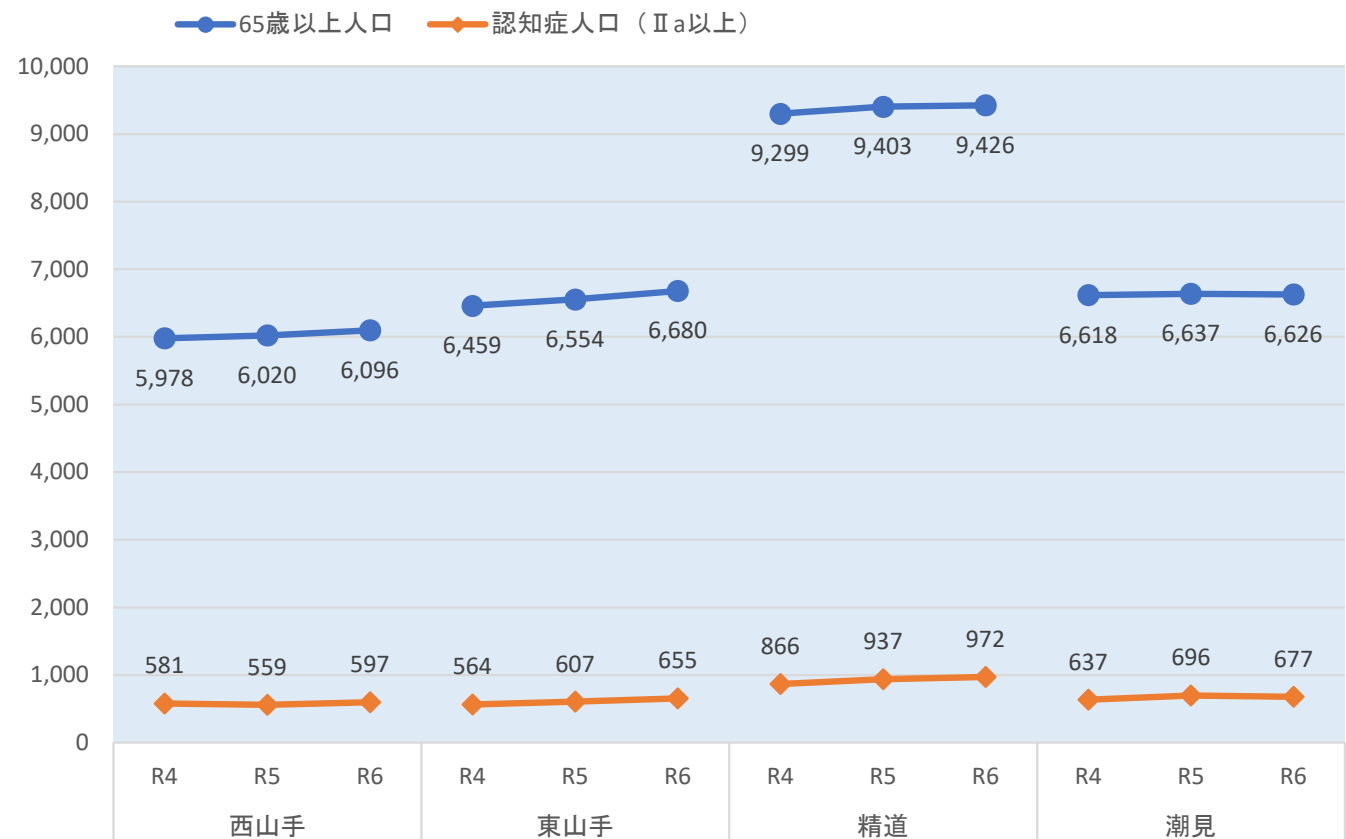
圏域概況（高齢者、認知症人口）

市全体の65歳以上人口は微増しているが、圏域別にみると概ね横ばい傾向がみられる。
 認知症人口の目安として、介護保険認定調査票より「認知症日常生活自立度がⅡa以上」の方の推移を示している。
 令和6年10月より、打出浜包括が設立され5圏域となったが、3年間の推移比較のためグラフ1-2では旧4圏域の数値を示している。認知症人口は微増しているが、割合では令和4年度比で0.8%増となっている。

グラフ1-1 市内 65才以上人口・認知症人口



グラフ1-2 【旧 4 包括圏域別】 65才以上人口・認知症人口

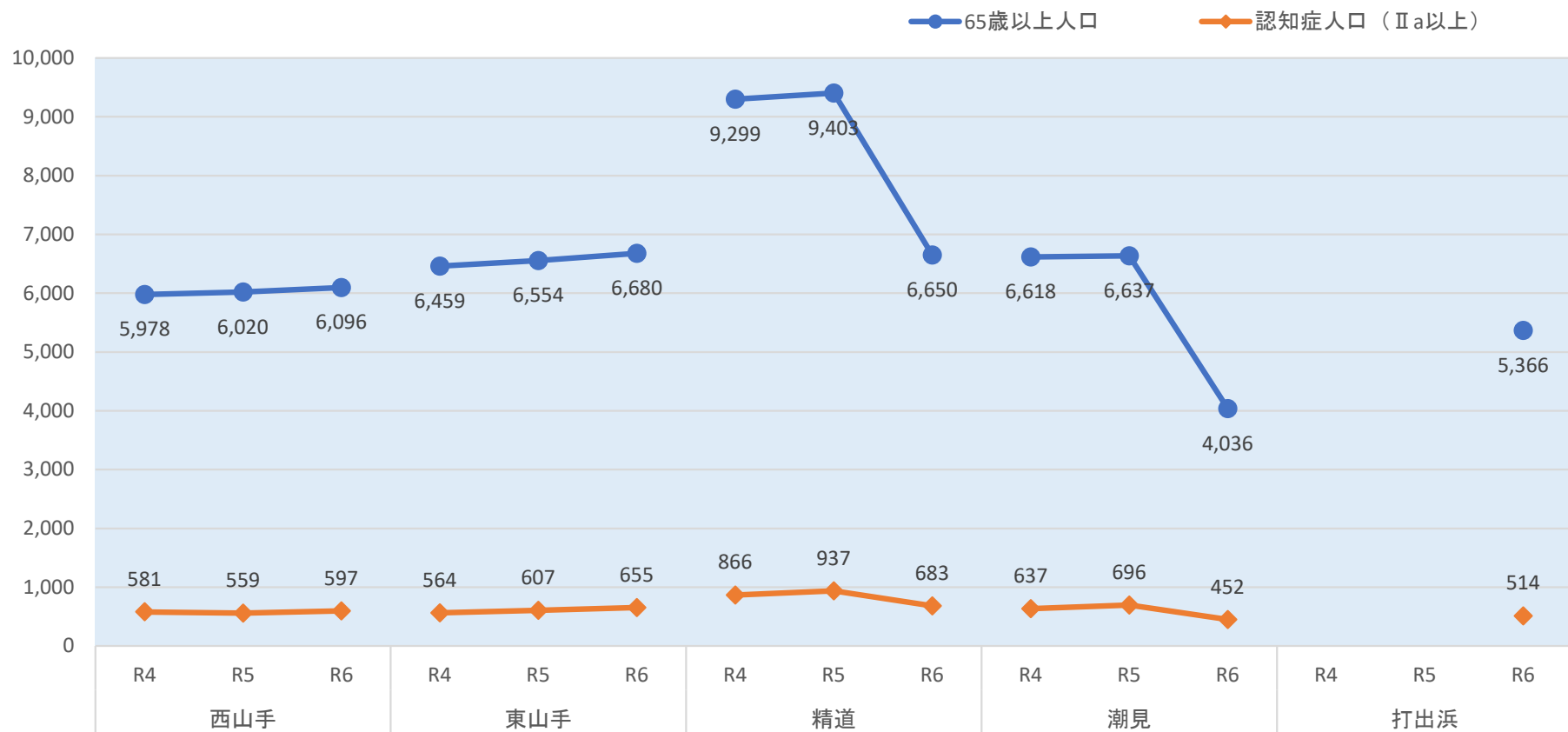


圏域概況（高齢者、認知症人口）

打出浜を含めた5圏域別の数値は以下の通りである。

精道圏域・潮見圏域の対象者数を打出浜圏域に分散できたことが、グラフ1-3から確認できる。

グラフ1-3 【5包括圏域別】65才以上人口・認知症人口

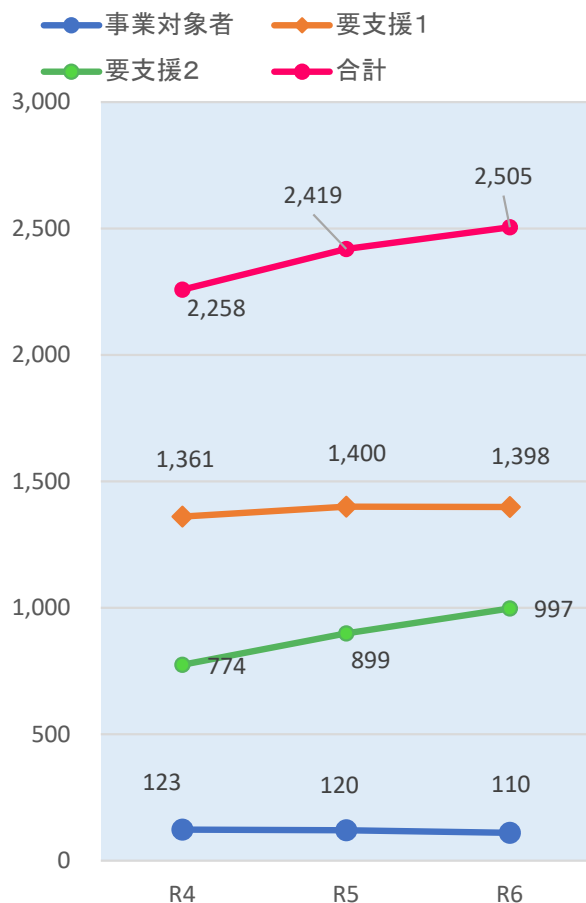


圏域概況（事業対象者、要支援対象者人口）

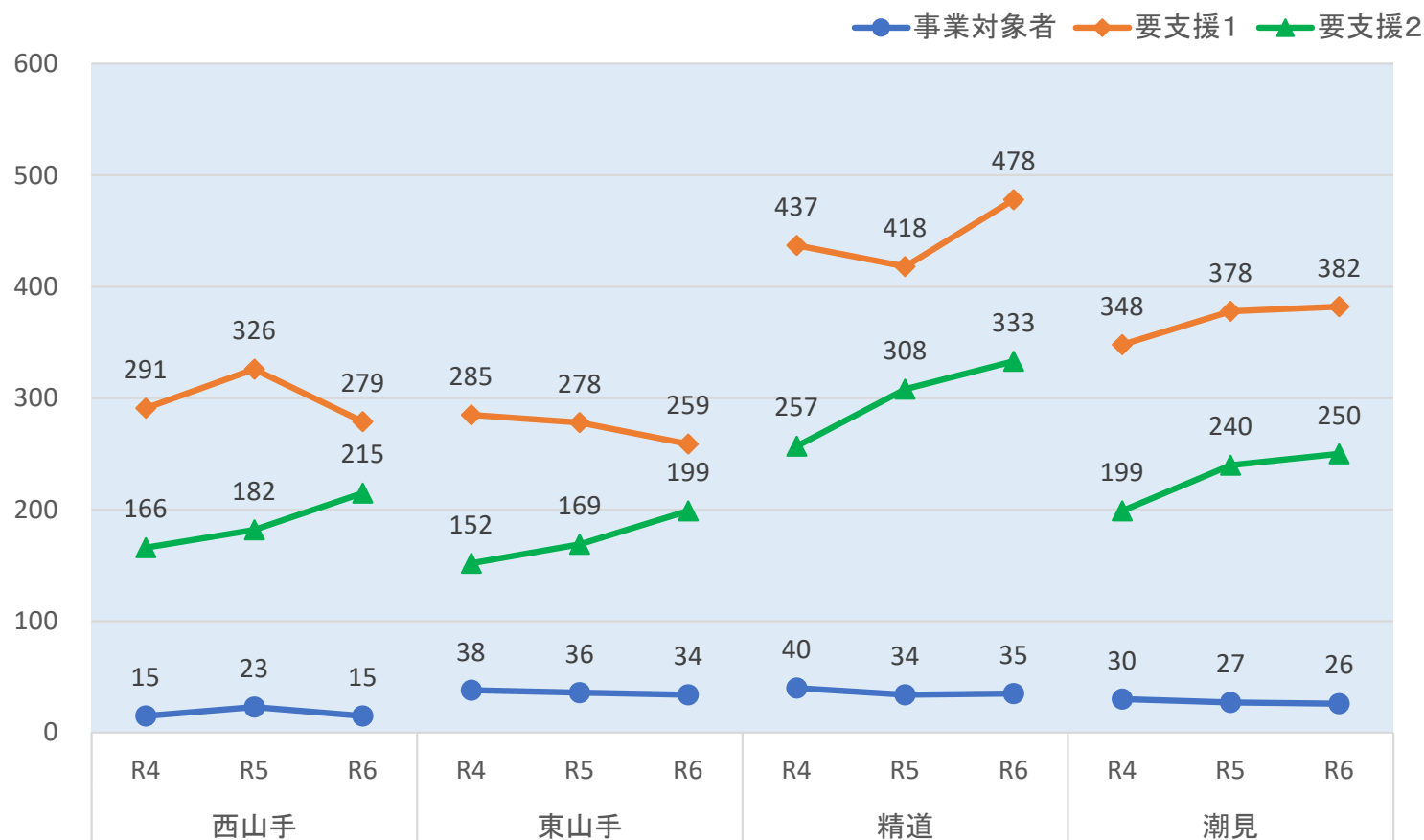
要支援2の対象者は前年比で約10%増となっている。総合事業のサービスのみを利用できる事業対象者は減少している。圏域別にみても同様の傾向がみられる。

要支援1・2および総合事業の合計人数は増加しており、令和4年度比で約11%増となっている。

グラフ2-1 事業対象者・要支援対象者合計



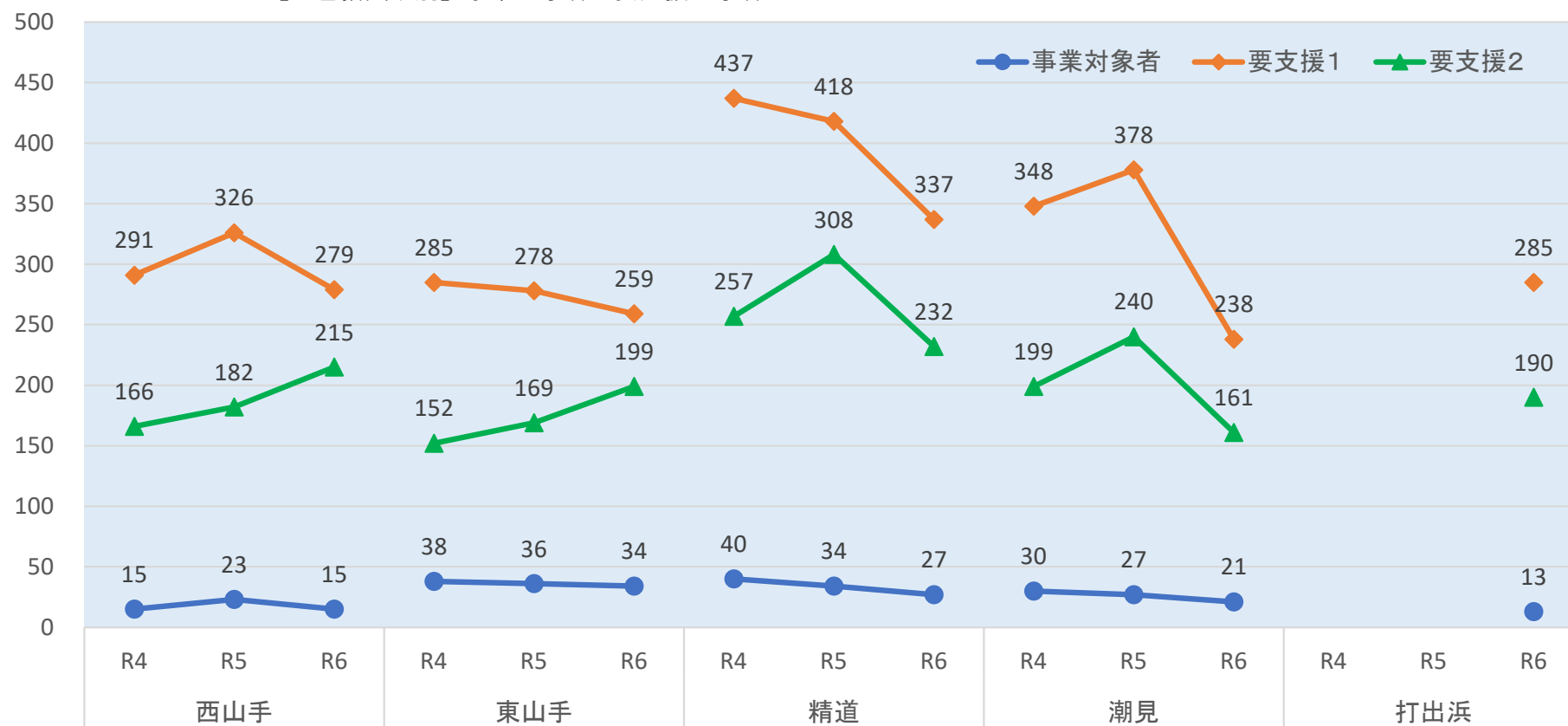
グラフ2-2 【旧 4 包括圏域別】 事業対象者・要支援対象者人口



圏域概況（事業対象者、要支援対象者人口）

5包括圏域別でみると、精道・潮見圏域の対象者を打出浜圏域に分散できたことがわかる。

グラフ 2-3 【5包括圏域別】事業対象者・要支援対象者人口

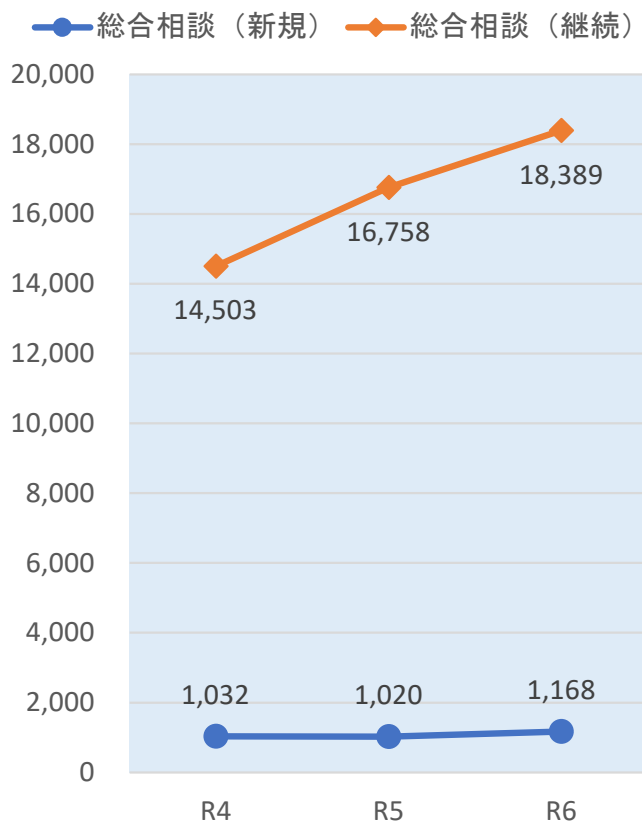


高齢者の総合相談について（相談件数【新規・継続】）

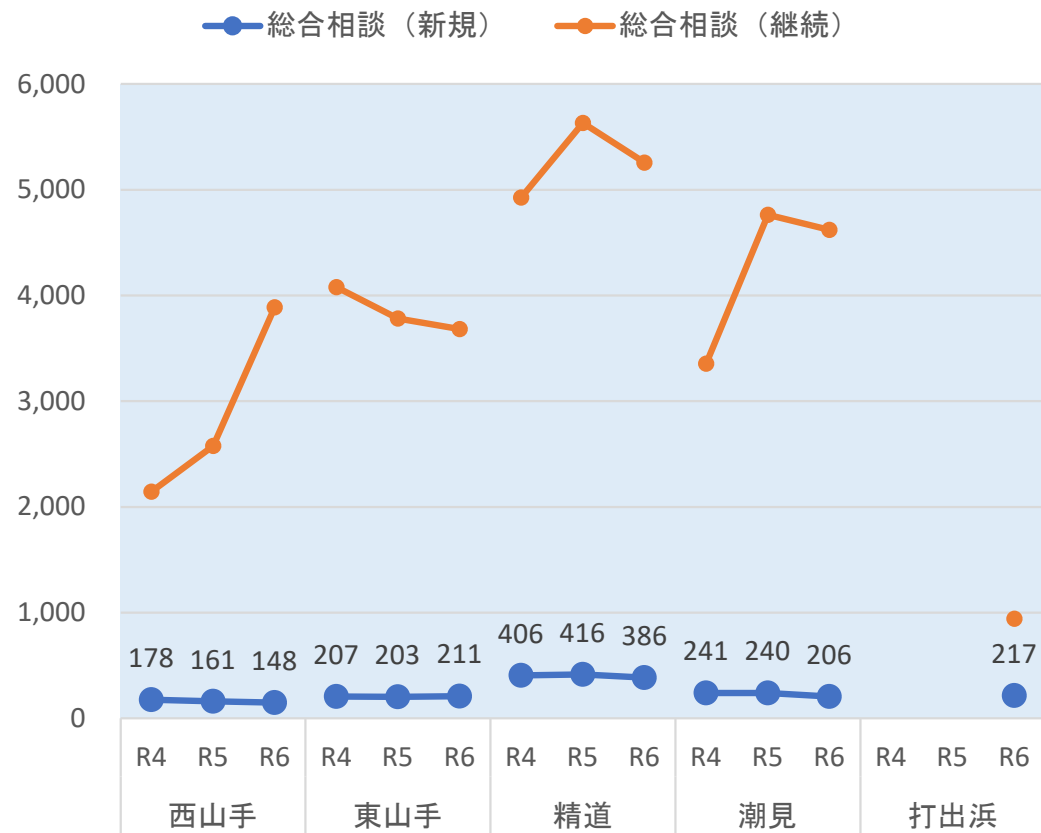
全体の相談件数のうち、新規相談は前年比15%増、継続相談は前年比10%増となり、増加傾向にある。
令和6年度10月に精道・潮見圏域の一部を打出浜圏域へ移管したことにより、圏域別では精道・潮見圏域が減少しているように見える。

しかし、精道・潮見・打出浜圏域の合計を算出すると、新規・継続相談ともに前年と比べ大幅に増加している

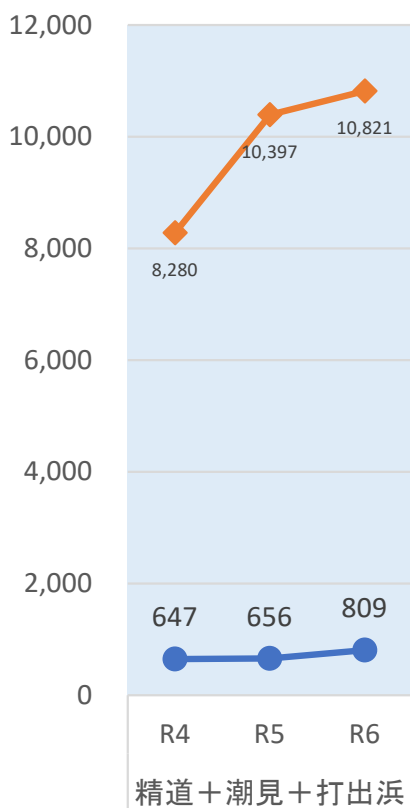
グラフ3-1 総合相談件数推移（合計）



グラフ3-2 総合相談件数推移（圏域別）



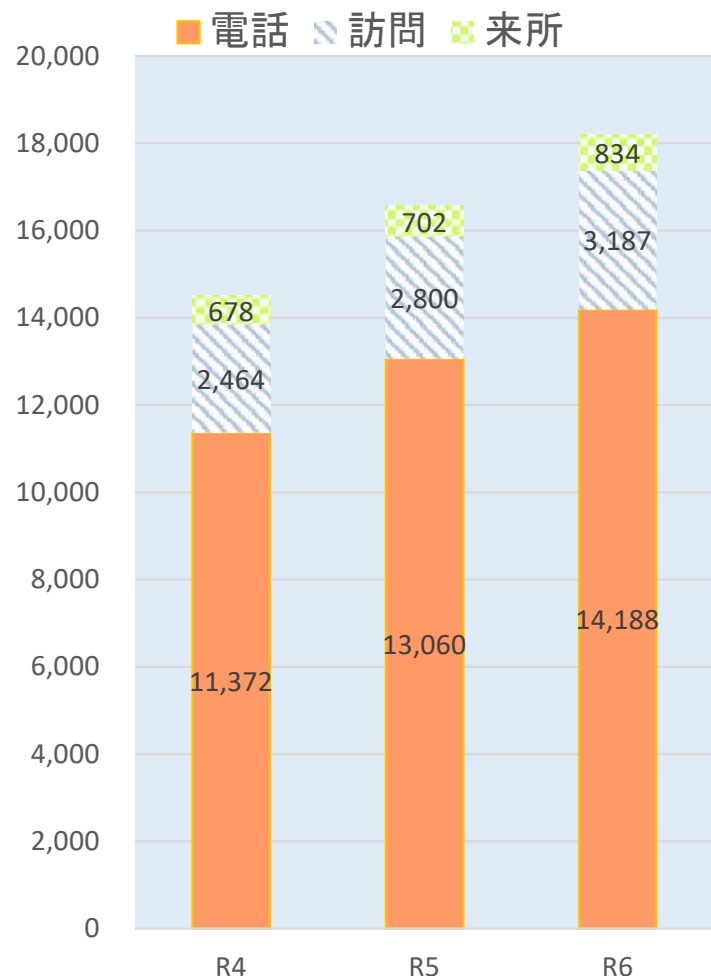
グラフ3-3
精道+潮見+打出浜 合計



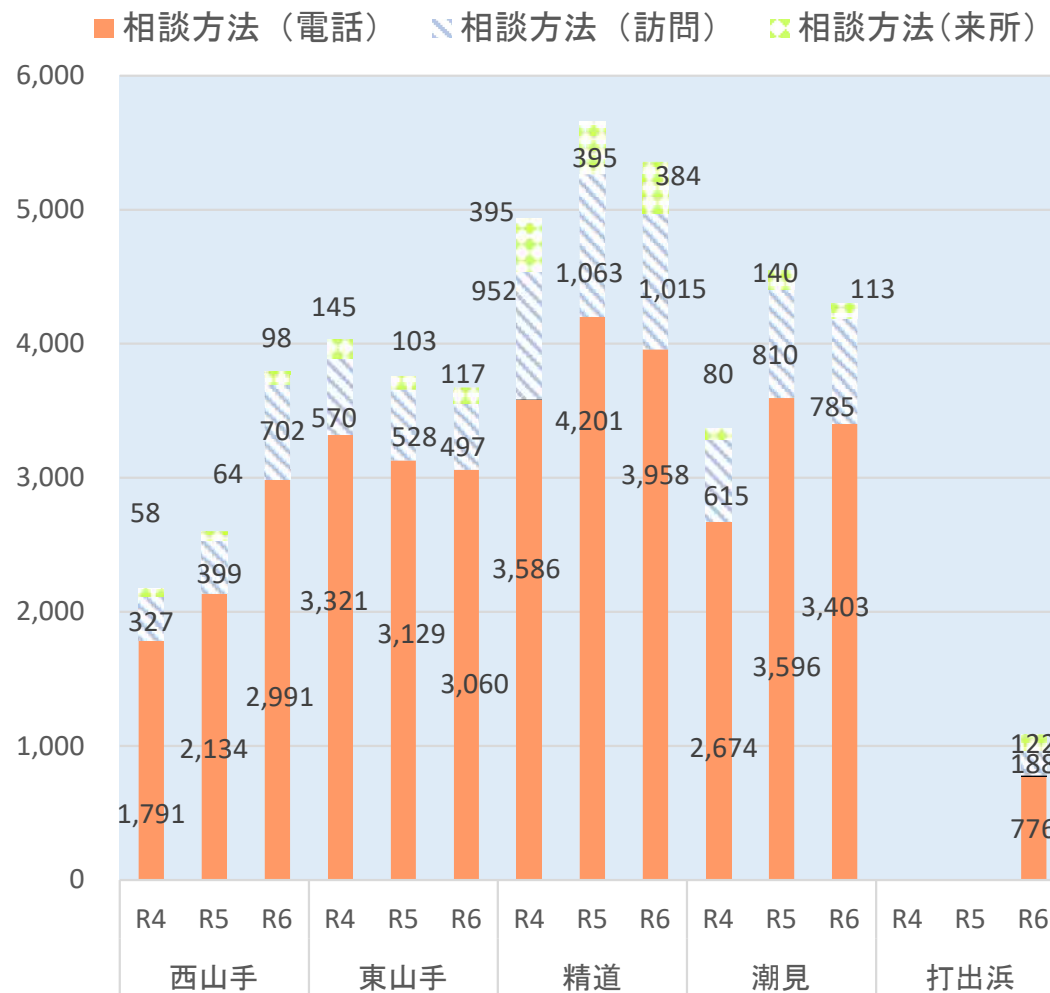
高齢者の総合相談について（相談方法件数）

電話相談の実数は増加しているが、相談件数全体が増加しているため、相談方法の割合に大きな変化はみられない。令和4年度以降、相談方法の分布は概ね変わらず、約8割が電話相談である。圏域別にみると、精道圏域では他の圏域と比べて訪問および来所相談が多い傾向にある

グラフ4-1 相談方法（合計）



グラフ4-2 相談方法（圏域別）

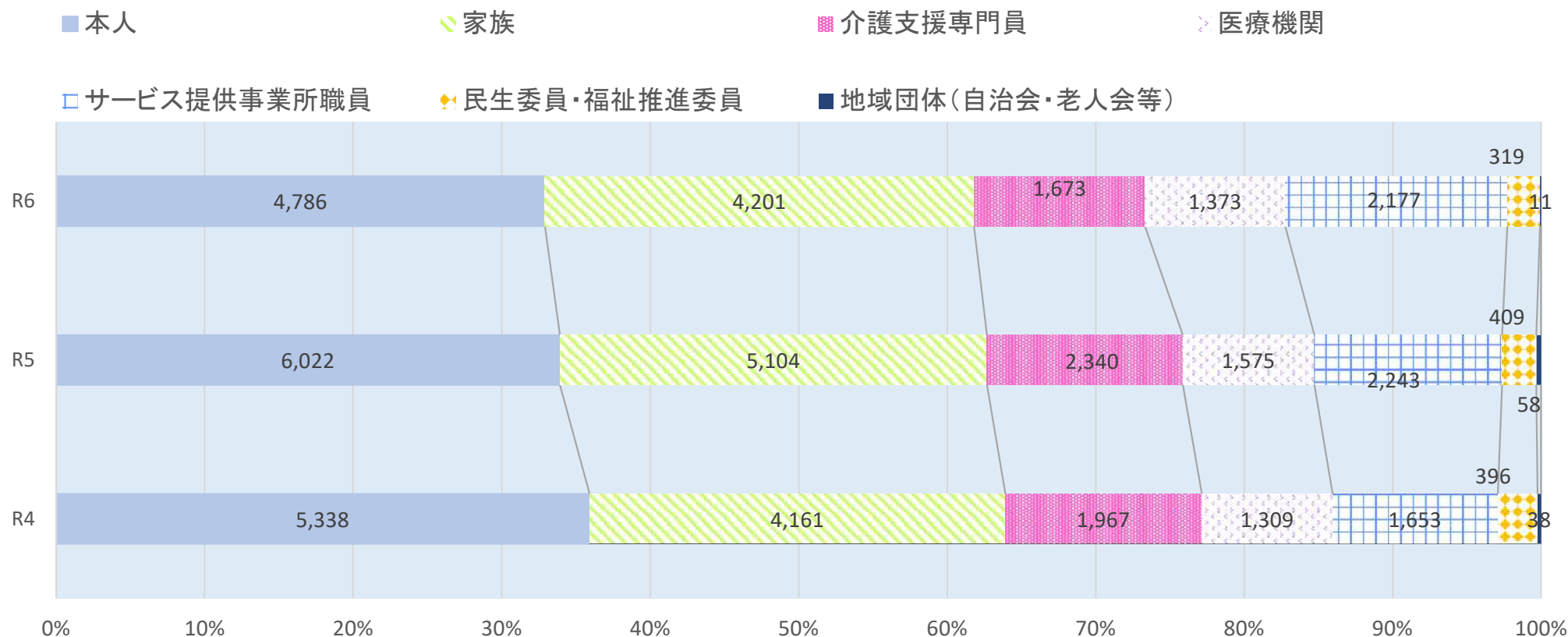


高齢者の総合相談について（相談対象者）

相談対象者累計は、対応するごとに計上しているため、実際の相談人数より多くなっている。
実数ではいずれも前年比で減少している。

相談者のうち、本人と家族からの相談が全体の約6割を占めている。

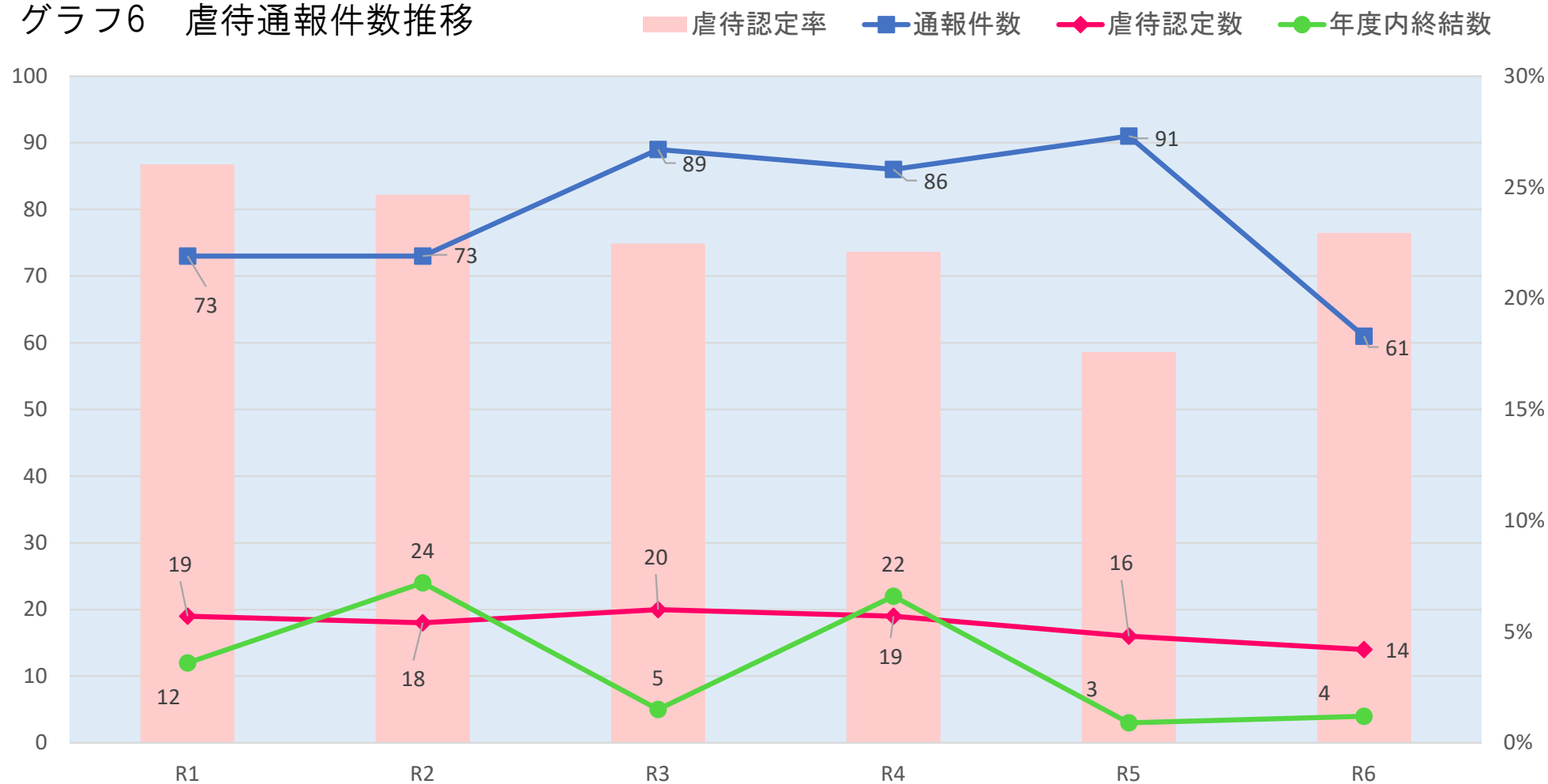
グラフ5 相談対象者累計



権利擁護業務（虐待対応件数）

虐待通報件数は令和元年度以降増加傾向にあったが、令和6年度は減少した。
一方で、年度内の終結件数は横ばいで推移しており、ケースの長期化傾向がみられる。
また、虐待認定率は前年比で増加しており、支援対応の負担は前年以上となっている。

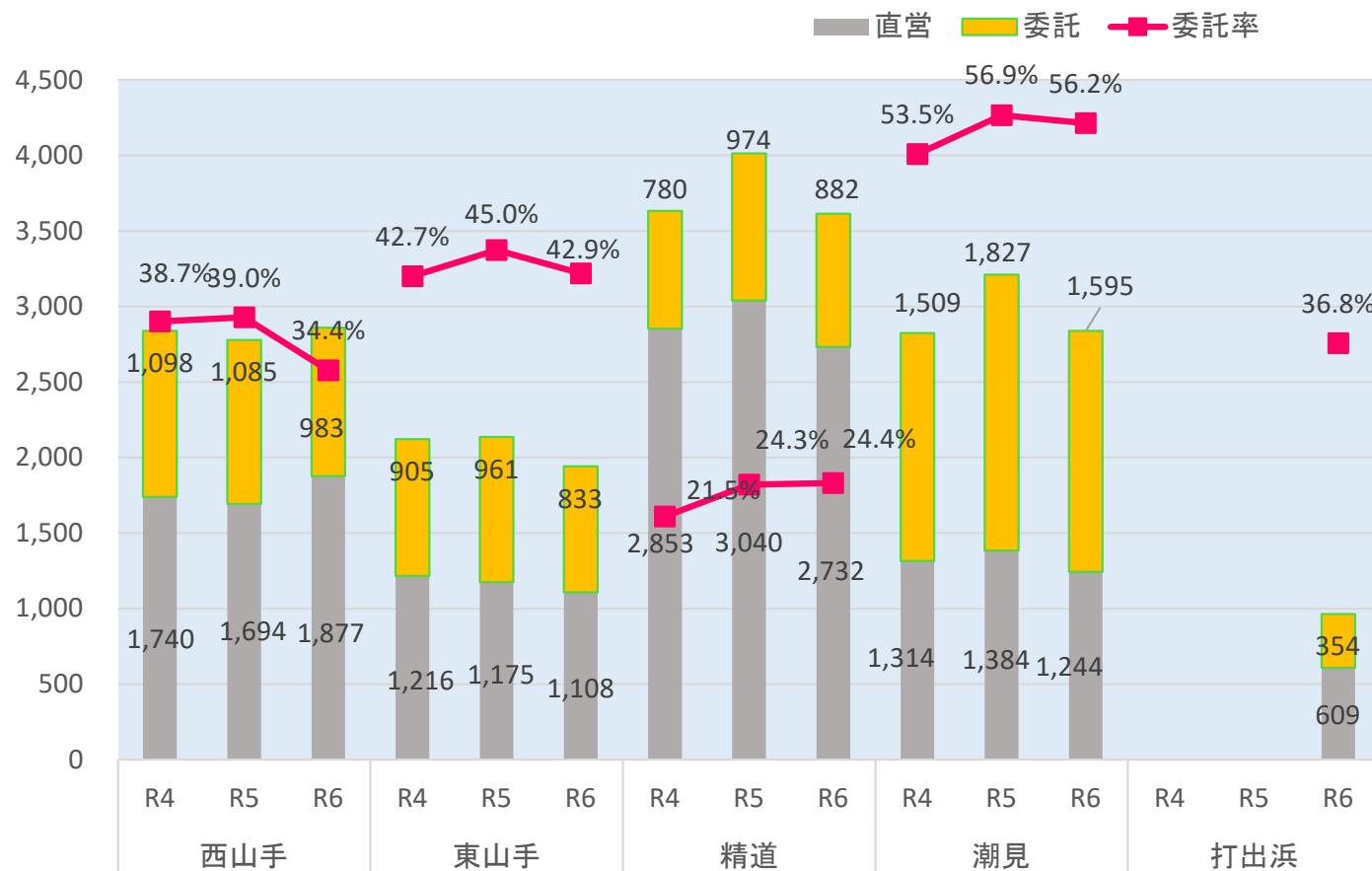
グラフ6 虐待通報件数推移



介護予防ケアマネジメント（予防プラン作成）

精道・潮見圏域は、打出浜圏域への移管により件数が減少している。全体としては委託率が微減したものの、約4割が委託である。予防ケアプラン作成件数は微増している。
自立支援・重度化防止につながるケアプランを作成できるケアマネジャーのスキルが求められており、引き続き地域ケア会議等を通じてスキル向上に努める必要がある。

グラフ7-1 予防プラン件数（圏域別）



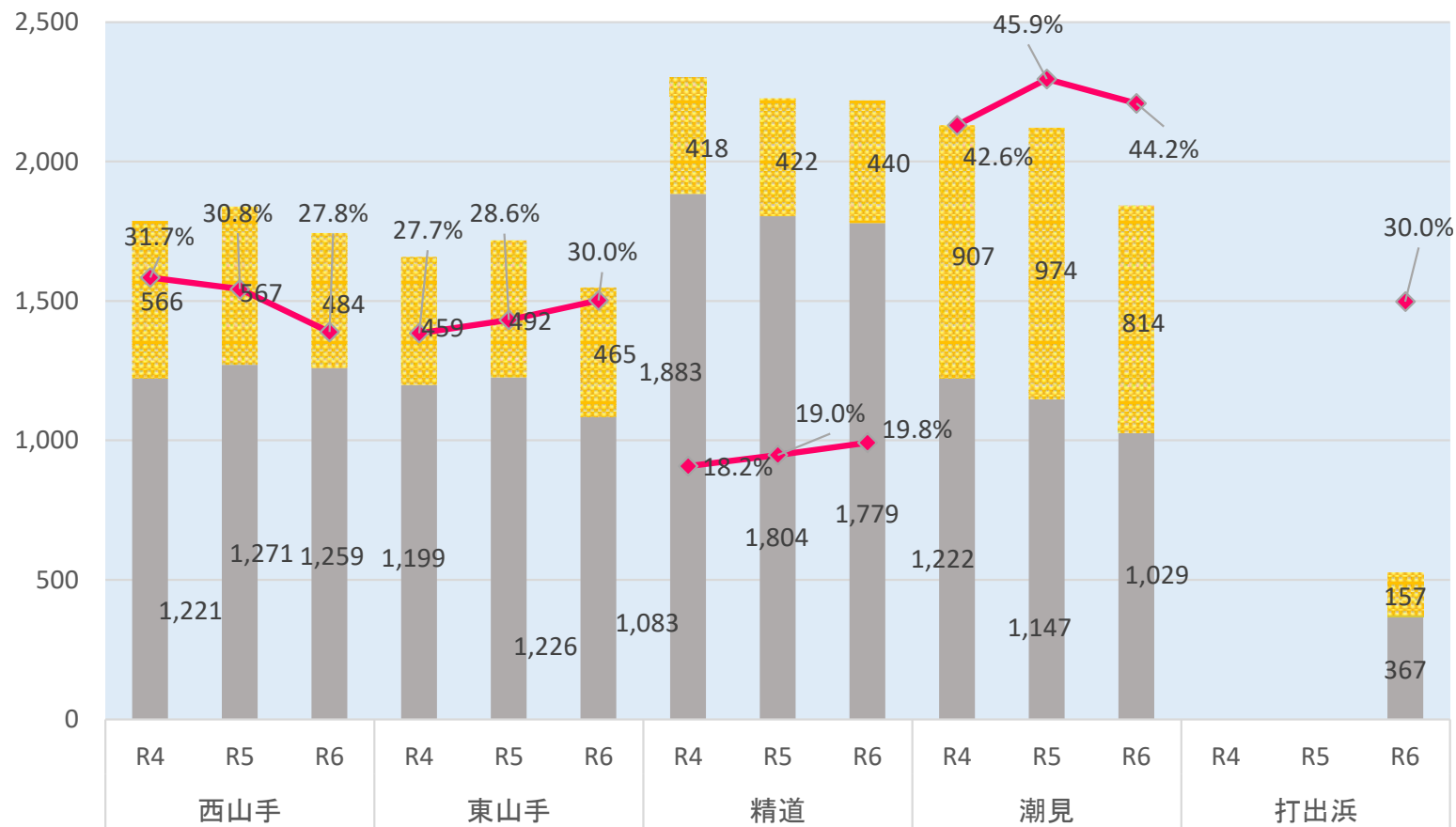
グラフ7-2 予防プラン件数（合計）



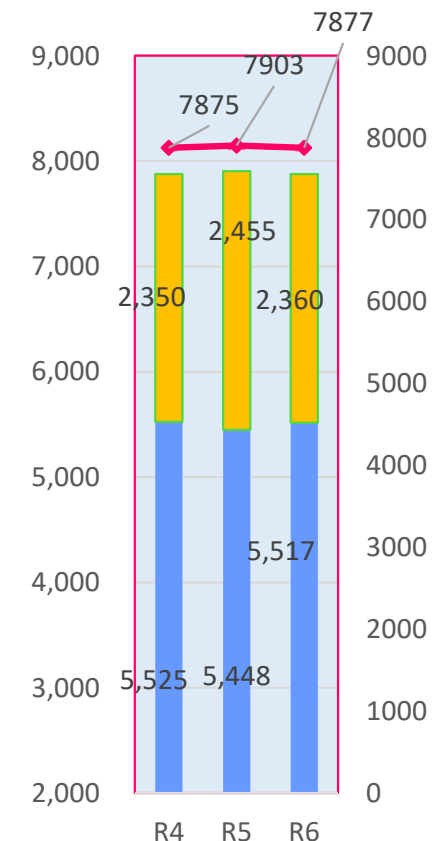
介護予防ケアマネジメント（総合事業に関するケアプラン作成）

総合事業に関するケアプラン作成件数は、全体として委託率がやや減少し、直営実施が増加している。
東山手・精道では委託率がやや増加している一方、西山手・潮見では委託率が減少している。
全体のケアプラン作成件数はやや減少した。

グラフ8-1 総合事業に関するケアプラン件数（圏域別） ■ 包括 ■ 委託 ◆ 委託率



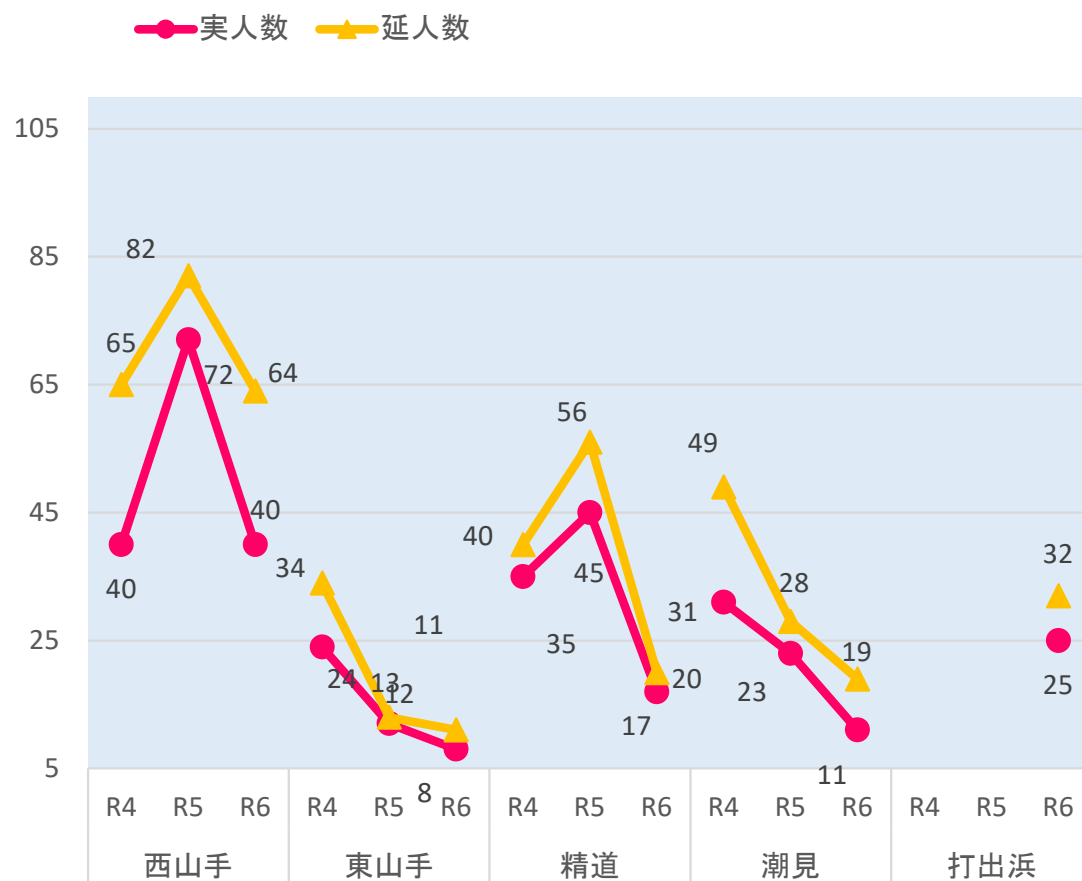
グラフ8-2 合計



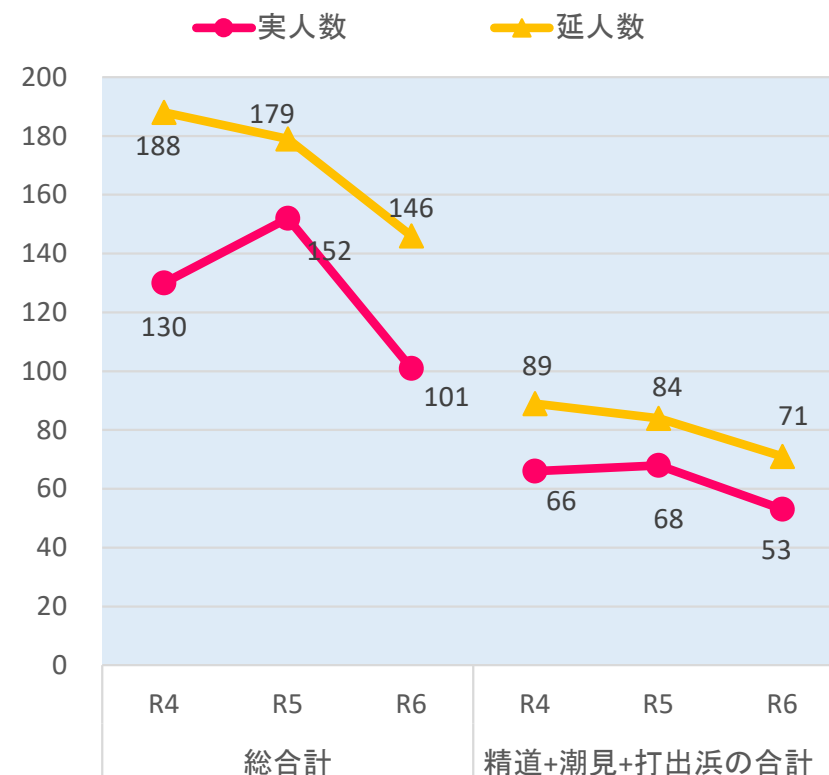
介護予防ケアマネジメント（ケアマネジャーからの相談件数）

令和6年度は前年比で実人数・延べ人数ともに減少したが、令和4年度比では大きな変化はない。
現場の所見として、ケアマネジャーからの相談のハードルは以前より低くなっている。
今後も、ケアマネジャーが相談しやすい協力機関としての役割を果たせるよう、周知・啓発や職員の知識研鑽に努めたい。

グラフ9-1 ケアマネジャーからの相談件数（圏域別）



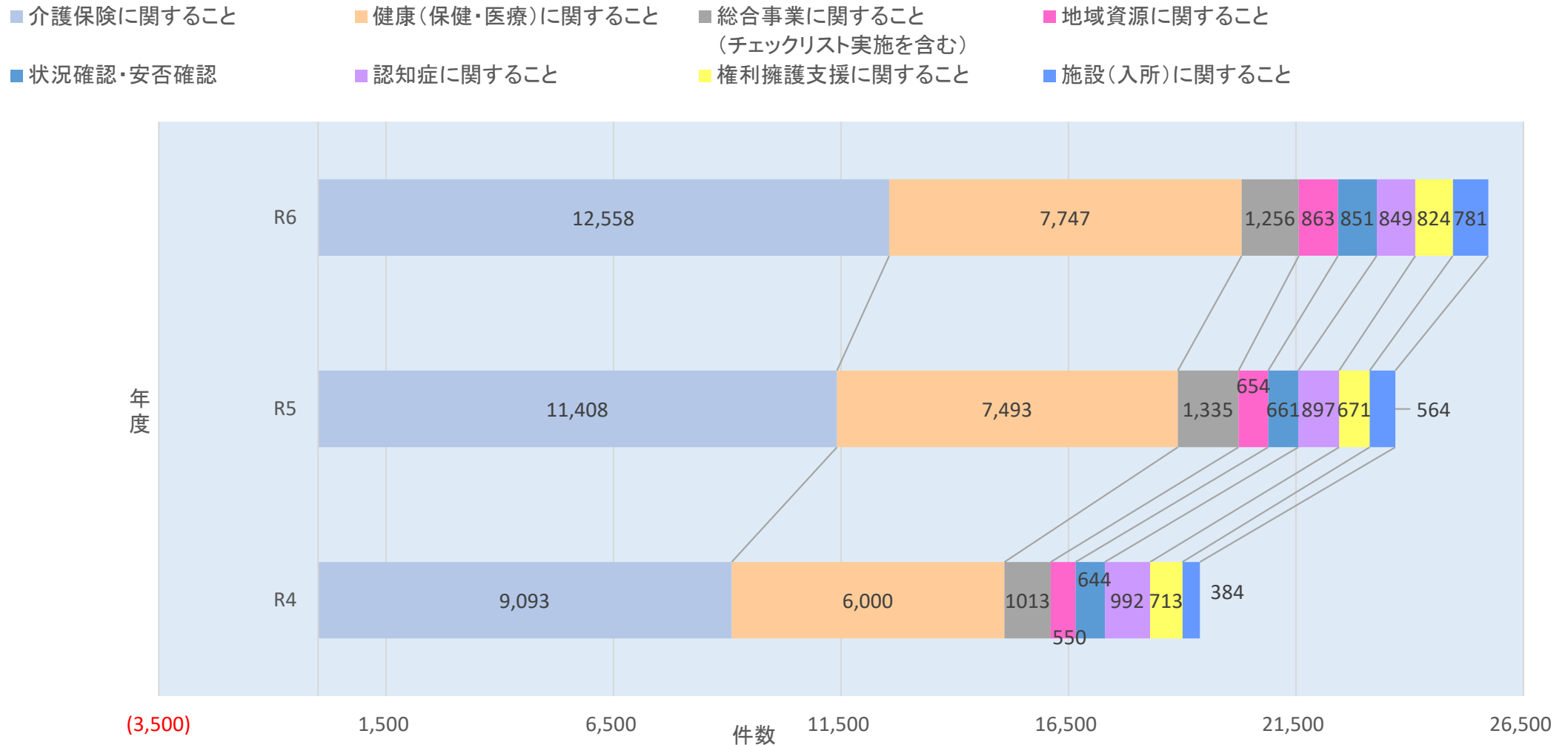
グラフ9-2 ケアマネジャーからの相談件数（精道+潮見+打出浜の合計、総合計）



相談内容

相談内容は、介護保険に関することと健康（保健・医療）に関することが全体の約8割を占めている。
令和6年度は、介護保険に関する相談が前年より微増し、介護保険サービスの需要の高まりがうかがえる。
相談件数は実数としても増加傾向にある。

グラフ10 相談内容



まとめ

【総合相談関係】

- 高齢者人口の増加とともに、相談件数も大幅に増加している。
- 令和6年度は、打出浜高齢者生活支援センターの設立により圏域を分割し、精道・潮見圏域の負担を軽減できた。ただし相談件数自体は大幅に増加している。
- 相談者は本人・家族からの相談が約6割を占める。

【総合事業・予防ケアマネジメント】

- 自立支援型地域ケア会議を通じ、サービス利用の優先に偏らず、一般介護予防や地域での役割を重視した支援を行うよう努めている。
- 介護予防ケアマネジメント全体ではケアプラン作成件数が増加している。

【虐待関係】

- 虐待通報件数は前年比で減少したが、認定率は増加しており、ケースの長期化や支援負担の増加がみられる。
- 令和7年度はすでに前年の半分である30件を超えており、大幅な増加が見込まれる。

